

宮城教育大学「311 ゼミナール」勉強会

2019.12.20(金)16:20-18.00 226 教室

東日本大震災に向き合い、伝え継ぐために

(仮)「わたしたちの世代がすべきこと、できること」

宮教大生にとって東日本大震災とは何か。311 ゼミナールは、教員を目指す学生として、震災に改めて向き合いなおすことをテーマに、4月から活動を続けてきました。

原点をもう一度確かめ合うために、震災に向き合い続ける同世代の語り部を招き、「わたしたちがすべきこと、できること」を一緒に考えます。

◎60分の講話、プラス質疑、意見交換

◎ゼミ生は全員参加を期待

◎ゼミ生以外の学生も、参加歓迎(ゼミ生は参加呼びかけを)

講師:雁部那由多さん(東北学院大学1年)



雁部 那由多

東北学院大学 教養学部 地域構想学科 1年

東北学院大学教養学部地域構想学科1年。平成11年9月17日生まれ。宮城県東松島市出身。2011年3月11日、東日本大震災発生当時、宮城県の東松島市立大曲小学校の小学5年生だった。発災後、地元に限らず県外の人に向けて、震災の体験と教訓を伝える「語り継ぎ」の活動をしている。

2016年、地震の被災体験をまとめた「16歳の語り部」を出版。大学進学後、自らの経験を学術的に分析・一般化すべく災害社会学の研究者を志している。



語り部
雁部那由多
津田穂乃果
相澤朱音
実内役
佐藤敏郎